

- 立科小学校/午前9時～午前11時30分
電話 56-3131 (呼)・有線2190 (呼)
- 立科中学校/午後2時～午後5時
電話 56-1076 (呼)・有線2251 (呼)
- 立科町児童館/
午前 11時40分～午後1時30分
電話 56-0303 (直通)
有線 8889 (直通)

※予約をされる方は児童館または小・中学校の
教頭先生へご連絡をお願いします。

わかさ 春三月、分去れの場、 えしゃじょうり 会者定離の時 みちこうごうへいか ～美智子皇后陛下のお言葉に学ぶ～

立科町教育相談員 岩上起美男

年度末の三月は、学校にとって、一年間の教育活動のまとめと新年度準備の時期です。したがって、慌ただしさの中に、「立科教育」も、推進元年の成果と課題が総括され、平成26年度の準備が着々と進められていることと存じます。

と同時に、春三月は、児童・生徒にとって、分去れ(分かれ道)に立ち、自分の道を歩み出す節目の時事です。そして、出会った人は必ず別れるという会者定離の時節です。

この三月、児童・生徒は、卒業や進学、就職、教職員の転任など、幾つもの分去れと会者定離を体験します。数々の別れを乗り越え、自分の道を自分なりに歩み始めることによって、また一回り大きく成長する時なのです。

卒業式直後の離任式において、人目もはばからず泣きじゃくる立科小学校の児童の姿に心を打たれることが何度もありました。その幼い惜別の涙は、必ずやその子の心の中の「命の根」をたくましく成長させていることでしょう。

§

このような分去れや会者定離を体験するたびに思い出し、その都度、深い感銘を覚える短歌があります。

かの時に我がとらざりし分去れの

片への道はいづこ行きけむ

美智子皇后陛下が詠まれた御歌です。

歌意は、「あの時に私が選択しなかった分かれ道のもう一方の道は、どこへつながり、いずこへ行つたのだろうか。」かと存じます。「かの時」とは、皇后陛下が民間から初の皇太子妃になられる決意をされた時とのことです。

昭和34年4月10日の皇太子明仁親王殿下と美智子さまのご結婚は、国民から「世紀の御成婚」と祝福されました。新しい時代の到来を予感させる御成婚に日本中が沸き上がり、御成婚パレードの沿道には約60万人が集いました。

当時、小学5年生の老生も、白黒テレビのブラウン管に映し出された雅やかなパレードを食い入るように見つめ、子ども心にも慶祝の意を抱いていたことを、今もはっきり記憶しています。

以来、永きにわたって、皇后陛下は、象徴天皇として即位された天皇陛下のおそばで、国際親善、儀式・大会への臨席などの公務、及び、大震災・噴火災害時の被災地訪問、戦争の惨禍を繰り返さないための発言や戦没者慰霊、福祉施設訪問などを、誠実に果たして来られました。慎ましく、ご聡明な美智子皇后陛下は、ご自分の使命と責任を真摯に受け止められ、伝統を守りつつ、従来の発想にとらわれない瑞々しい感覚で活動され、皇室

と国民との架け橋になられたのです。

しかしながら、古い波と新しい波がぶつかり合うご結婚であったことも、また事実であったようです。そのため、皇室の伝統と改革の狭間で、さらには、複雑な人間関係の中で、皇后陛下は、余人には計り知れないご苦勞を重ねられたそうです。

御歌には、そのご心労とともに、数多くの苦境や困難を克服され、信頼される天皇陛下とご一緒に今在ることのお慶びが感じられ、胸が熱くなる思いが致します。さらに、誰にも通ずる普遍的な真理が宿っていることにも、心から感服致します。皇后陛下の「かの時」のご決断の重さには到底及びませんが、御歌が、生きることとは分去れの連続であることに気付かせ、選択を迷ったり、悔いたりしながらも、自分が選んだ道を自分なりに、自分らしく歩もう、という元氣や励みを分け与えてくれるからです。

美智子皇后陛下は、このような心揺さぶるお言葉を数多く残されています。

その中でも特に、平成10年国際児童図書評議会(IBBY)ニューデリー大会の基調講演(演題「子どもの本を通しての平和」)における、次のような読書に関するお言葉は、何としても子どもたち